

令和元年 11月 7日

東松島市議会議員 大橋 博之 様

(会派名) 松裕会

代表者氏名

小野 幸男



会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 松裕会視察研修

3 実施期日: 令和元年 10月26日(土) ~ 10月28日(月)

4 活動成果: 震災後、互道的支援を叶たいという中野正 へ
関係するイベント(東北復興大祭果ての)へ参加し
震災の記憶の風化防止を学ぶ。友好都市である
豊前市へ、議長とともに表敬訪問を兼ねて、カラス天狗
平川の視察と、ジビエの加工処理と海苔干し豊前にて、
経済的交流としての入毛の加工処理を研修した。

5 添付書類:

別紙 報告書



報告及び所見

11月26日東京都中野区

中野区においては、震災後職員派遣等の様々な支援を頂いています。また、本市における夏祭りでの出店や現在もまちづくり委員会によるサンタを探せのイベントには、継続的な人的支援を頂いているところである。

今回は、会派として「2019 東北復興大祭典なかの」に、議長に帯同するかたちで訪問した。このイベントの目的は、被災地への復旧・復興支援に対する中野区民の理解を深めると共に東北各県及び熊本県の観光・文化のPRや物産の販売を行うことにより、震災の記憶の風化防止や復興に寄与することとしている。

本市の奥松島公社が、出店し牛タン、焼き海苔、のりうどん、地酒等の販売を行っていた。また、販売員として会派の桜井議員が自費で参加しており、東京東松島会の方々にも協力いただいていることから、激励、敬意を表した。東京都中野区と本市の関係は、民間交流が主であり、大田区や東根市、豊前市とは異なるが、これまでの民間交流の継続的な発展を如何に行っていくのか課題である。本市の物産の販路として十二分に魅力的であり、こうした交流を生かした経済の構築を望みたい。

日本ウエルネス中野高校を時間的制約がある中、急遽視察項目に加えた。本市におけるタイケン学園東松島高校に関連することから、中野駅近傍に所在する日本ウエルネス中野高校を訪ねた。しかしながら、中野区職員に尋ねると不明であり、HP上で検索し現地にわざわざ赴いたが現在は存在しないとのことであった。いささか、影を落とす調査になった。

11月26日、27日福岡県豊前市

豊前市は、本市のカキの稚貝を利用していた関係から、震災後漁船提供等の様々な支援を頂いています。また、本市の夏祭りにおいては、出店での売上を毎回寄付していただいている、友好都市締結している等繋がり深い都市である。

今回、豊前市におけるカラス天狗祭りに議長に帯同表敬訪問し、獣肉処理加工施設、うみてらす豊前を視察研修した。26日には、後藤市長、磯永議長以下10名の参加を得て両市における課題について、意見交換を行なった。27日には、視察研修の後、カラス天狗祭りに参加し祭りのステージで紹介を受け、会場ブースの本市まちなどや本市職員を表敬した。

獣肉処理加工施設

豊前市においては、有害鳥獣による被害が年々増加していることから、農林

業等に係る被害の防止と有害鳥獣捕獲意欲向上などを目的として、国の交付金を活用し、捕獲したイノシシ及びニホンジカを地域資源として、有効活用を行い、地域の活性化及び有害鳥獣の捕獲員の高齢化などによる負担軽減、担い手の確保、育成、意欲向上に寄与するための手段として設置された。施設は、下水浄化処理場に近接するなど、環境に配慮し事業費は、67,935千円である。肉の品質保持のために、持ち込みには、様々な制約を設けて品質管理を行っている。特に、死んでから1時間半以内としていて、なお連絡なしでは受け付けないと厳しい。また、処理中の受け付けもしないが、死骸は、一般ごみで出せるようになっている。

燻製、ハム、ソーセージ等の加工品にも力を入れている。しかしながら、獣肉を貰って食していた習慣があるため、豊前市や近隣において販売に苦慮している現状がある。

うみてらす豊前

漁港の傍の施設で、二階には、食堂、一階には、はもの処理場といけすの魚や土産物の販売を行っている。鱧は、とてつもない位太く長い。その鱧を、専用の骨切機で簡単に処理加工していて、他の魚もその場で捌いて客の求めに応じて販売されていた。ちょうど昼時であったため、食堂には、長い行列ができていた。

1Fのモニター画面では、ワタリガニの食べ方のビデオテープが流されていて、市長自らが出演していて、豊前市のPRに努めていたのが印象深い。いけすは、小さく小分けされていて、各々の漁師が価格や陳列する魚も様々で面白く、客の興味を引く工夫がなされている。

獣肉や鱧といった食材は、本市にない食材であり、豊前市が望む友好都市関係にとどまらない経済的拡大に発展する素材と考えられる。また、本市が販売の窓口になったり、販路拡大に協力することもひとつの両市における経済発展につながることや、両市の地場産品を生かしてのウインウイン関係の構築も考えられるだろう。

本市における宮戸のあおみな施設の現状や運営を考えるにあたり、うみてらす豊前は、おおいに参考になるものであった。集客のための仕掛けや、地場産業の漁業の更なる関わりに、まだまだ改善や期待されるものがあると考ええる。